

# 「みんなで創る授業」

～ 子どもの姿から確かな学びへつなげる授業改善 ～

## 研究スタイル

### 授業改善「わくわく大作戦」

- ◎子どもの実態（アセスメント評価、ICFの視点等）をおさえた授業実践を行う。
- ◎子どもの目指す姿を明確にした授業づくり、子どもの姿から振り返る授業改善を行う。  
（学習指導内容表、自立と社会参加をめざす学習内容表等をおさえた目標 評価規準）
- ◎教員による協働的な学び合いを進める。
  - ・授業検討チームによる検討会（見える化、効率化、ブレインストーミング）
  - ・一人1回の「研究授業 or 授業公開」、「教材教具・指導法の工夫シート」の作成
  - ・校内人的資源の有効活用  
（教材・授業支援研究室、授業改善アドバイスシステム、授業参観システム等）
- ◎子ども自身が ICT 機器を使って学びを広げる実践  
⇒子どもに応じた様々な活用方法の共有、検証

～つくる・つたえる・つなぐ～

### 専門性の向上「S&T 大作戦」

- ◎授業力向上や子ども理解等に  
関わる研修を行う。
    - ・授業改善研修会
    - ・夏の公開研修会
    - ・さがちゅうゼミ（自主研修会）等
  - ◎自己研鑽を支える環境の充実
    - ・教材教具・指導法の工夫シート
    - ・NISE 学びラボ（講義配信）視聴
    - ・過去研修会 DVD の閲覧
    - ・ポスター等掲示物による情報共有
- ※S&T: study and training  
研究と修養⇒研修

### 合理的配慮「EE 大作戦」

- ◎中央支援スタンダードの活用、充実に取り組む。
    - ・統一シンボル
    - ・統一サイン
    - ・フロントゼロ
    - ・教室内の環境整理
    - ・右側通行
    - ・教室内の掲示物
    - ・手順書
    - ・水泳学習進度表
    - ・UD フォントの積極的使用
- ※EE: educational environment

# 授業改善「わくわく大作戦！」

今年度の取り組み

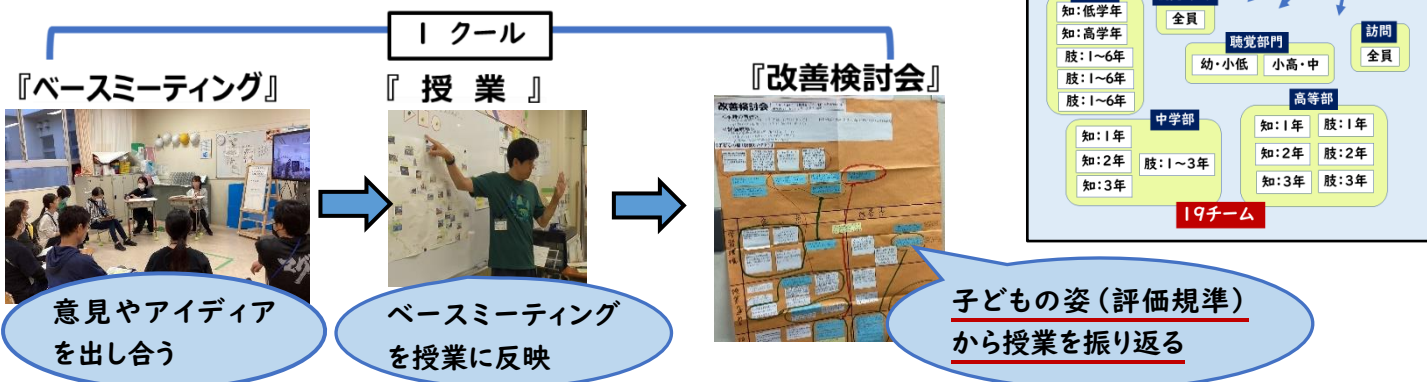
## 子どもの姿から振り返る授業改善

改善検討会の視点を子どもの姿にあて、評価規準に基づいて振り返りを行うことで、子どもの学びの過程から実態を捉え直し、目標をより明確にした。評価に着目したことで、子どもたち一人一人の学びの姿を具体的にとらえようとする意識が高まったと思われる。

## 教員による協働的な学び合い

### 授業検討チームによる授業検討会

授業者のみでは気づけない視点からの意見やアドバイスを出し合う、聴き合うことを通し、チームでの学び合いをねらいとしている。ほとんどの教員が授業づくりに効果的であると捉えており、学びや気づきにつながる協働的な学びの場となっている。19チーム、3クールを設定、今年度は進行役をたて、より効果的に検討会が進められたと感じた人が多かった。



## 一人1回の研究授業・授業公開(86件)

日常の授業を振り返り、授業改善につなげた。教員がお互いの授業を参考にできるよう、授業公開のまとめファイルを作成した。

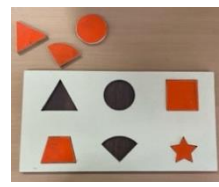
## 教材教具・指導法の工夫シート・教材教具展示

情報共有と発信力を高めることをねらいとして一人1枚の「教材教具・指導法の工夫シート」を作成し掲示した。また教材教具を展示し校内での情報共有を行い、近隣小中学校への公開を行った。



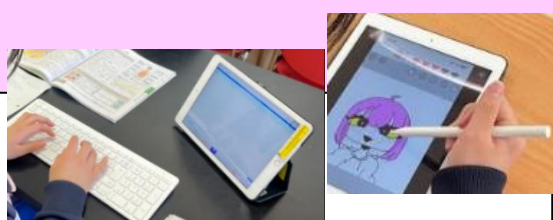
## 校内人的資源の活用・『高根教材支援研究室』

高根教材支援研究室では「〇〇が作りたい」という考えを一緒に実現する場所として活用された。全校で使える教材作成を進めており、共通教材として活用を広げたい。



## 子ども自身が機器を使って学びを広げる

子ども自身がICTを活用する場面の設定はできてはいるが、使用場面が限定的であるなどの課題がある。聴覚部門では授業の振り返りにプレゼンテーションアプリを活用、生徒自身が気づきを得て学習の理解を深めることができた。活用事例の共有としては「ICT活用の工夫シート」の掲示等を行ったが、次年度の1人1台端末の活用の充実に向け、更に子どもに応じた活用の共有、検証に取り組む。



# 専門性の向上「S & T大作戦！」

今年度の取り組み

全体で行う授業改善研修会、希望者が参加する夏の公開研修会、さがちゅうゼミを実施し、いろいろな視点からの研修会を通して、授業力向上や子ども理解について学び合い共有することができた。

研修会名	実施日	講師及び講演内容
<b>授業改善研修</b> <b>授業力向上や</b> <b>子ども理解に</b> <b>関わる研修</b>	5月～6月 7月21日(金) 7月24日(月) 7月27日(木) 1月31日(水) 8月29日(火)	①水泳指導研修会(各学部・部門で実施) ②共和小合同授業検討会(8分科会で実施) ③「ICF 関連図作成について(演習)」 *7/19(水)「ICF 事前研修」(新転任者対象) ④第1回 視機能ケース報告会 第2回 視機能ケース報告会 ⑤講演会 「子どもを見る眼・発達を整理する視点～子どもを深く理解する～」 池畑美恵子氏(淑徳大学 発達臨床研究センター所長)
他部門紹介研修	7月21日(金)	訪問の取り組みを紹介
全体研究講演会	R6 2月6日(火)	「子どもを見る眼・発達を整理する視点～理論を指導・支援にいかす～」 池畑美恵子氏(淑徳大学 発達臨床研究センター所長)



## 夏の公開研修会(5講座)

- 「視覚障害について(点字)」 杉山節子教諭
- 「ろうとして」 下村宏亮教諭
- 「進路から見るe-スポーツの可能性」  
相模原 e-スポーツ協会の方々
- 「親子ムーブメント運動教室」  
森田みゆき教諭・石田真大教諭・星萌花教諭
- 「第2回ぎんがポッチャ体験会」  
神奈川県ポッチャ協会川崎様



## さがちゅうゼミ(自主研修会)

- 「おはしのおはなし～手の発達の機能を捉えて～」
- 「陶芸教室～土に親しみ、形づくりにチャレンジ!～」
- 「心に重なる～身体と心のコミュニケーション～」
- 「浩栄先生と学ぶ 子どもの世界」
- 「実務研修報告会」



## ICT活用研修

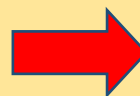
ICT活用研修では、活用の実践報告とICT機器の活用体験を行った。7つの体験ブースにわかれ、視線入力、iPadアプリの活用等の体験を行い、授業での効果的な活用について考える機会とした。次年度は学部によって使用する端末が異なるため、端末に応じた内容等、研修の工夫を行う。



## 合理的配慮「EE大作戦！」

《スタンダード》

- ア 統一シンボルを使用した日課カードによるスケジュール提示
- イ 統一サインをコミュニケーション手段として活用
- ウ 教室の前面や室内の環境整備及び校内の環境整備
- エ 水泳学習進度表による適切な課題設定に基づく水泳指導
- オ 「手順書」の活用と充実
- カ UDフォントの積極的な活用



子どもたちが戸惑うことなく学び続けることができる環境つくりのため、学校全体で指導のつながりを意識し、共通理解して取り組めるよう、年度始めに学部部門ごとに内容を確認した。また一人一冊手元に置き、活用を進めてきた。

